

2010.3.11「核の密約が判明 今こそ自主防衛の議論をすべきだ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

昨日（3月10日）の集中審議で、私は政治と金について自民党代表として質問しました。この様子はテレビやインターネットなどでご覧頂いたと思います。政治と金の問題に対しては説明責任、政治的責任を果たすことなく、いきなり企業団体献金を廃止すれば良いという対応でした。この論法自体無茶苦茶であり、よく国会の場で国民に平気で言えるものだと思えませんでした。

今日お話ししたいのは、岡田外務大臣が核密約の問題を公表した事です。これにより事実が国民の前に明らかになってきました。確かに、知らない間に日本に核の持ち込みがあったことは問題です。しかし、日本では『作らず・持たず・持ち込ませず』という非核三原則を主張はするものの、そのくせ自分は一切何もせずアメリカの核の傘の下で安全保持を考える。これ自体に無理があり、欺瞞（ぎまん）であることが一番に議論しなければならない問題ではないでしょうか。もちろん民主党の中でこの問題が議論されていませんが、我々自民党もこの問題について深刻に、そして真剣に考えていかなければならないと思っています。

自民党政権は、占領が終わった後の戦後体制をそのまま引き受けて始まりました。だからこそ、核の密約等も含めて当時の総理大臣の方々はご苦労されたわけです。戦争が終わり、占領が終わってから半世紀以上経ちますが、未だに自分で自分の国を守るというまともな議論がされていません。にもかかわらず、非核三原則という絵空事を表面上守り続ければ、自身の手を汚さずに国を守る仕組みを作ることができると思いついてきたのです。

この問題は自民党が大いに反省しなければなりません。そして民主党がどのような対応をするか知りませんが、自民党の中でまず核の密約公開を受けて、国防の現状、どうすれば未来永劫自分達の国を守れるのか、核の問題についてどうあるべきなのかを国民に問いかけ議論すべきだと思っています。この核の問題をタブーにしたことが思考停止を招き、今日の状況を生んでしまいました。これをきっかけにオープンに議論していけると私は思います。

今後、この問題を国民に説明し議論していかなければならないと思っています。私も様々な所で自らの国は自らで守っていかなければならないという、当たり前の道義に戻っていく大切さを皆様に訴えて行きたいと思っています。

今後ともご支持ご支援よろしくお願いします。ありがとうございました。